

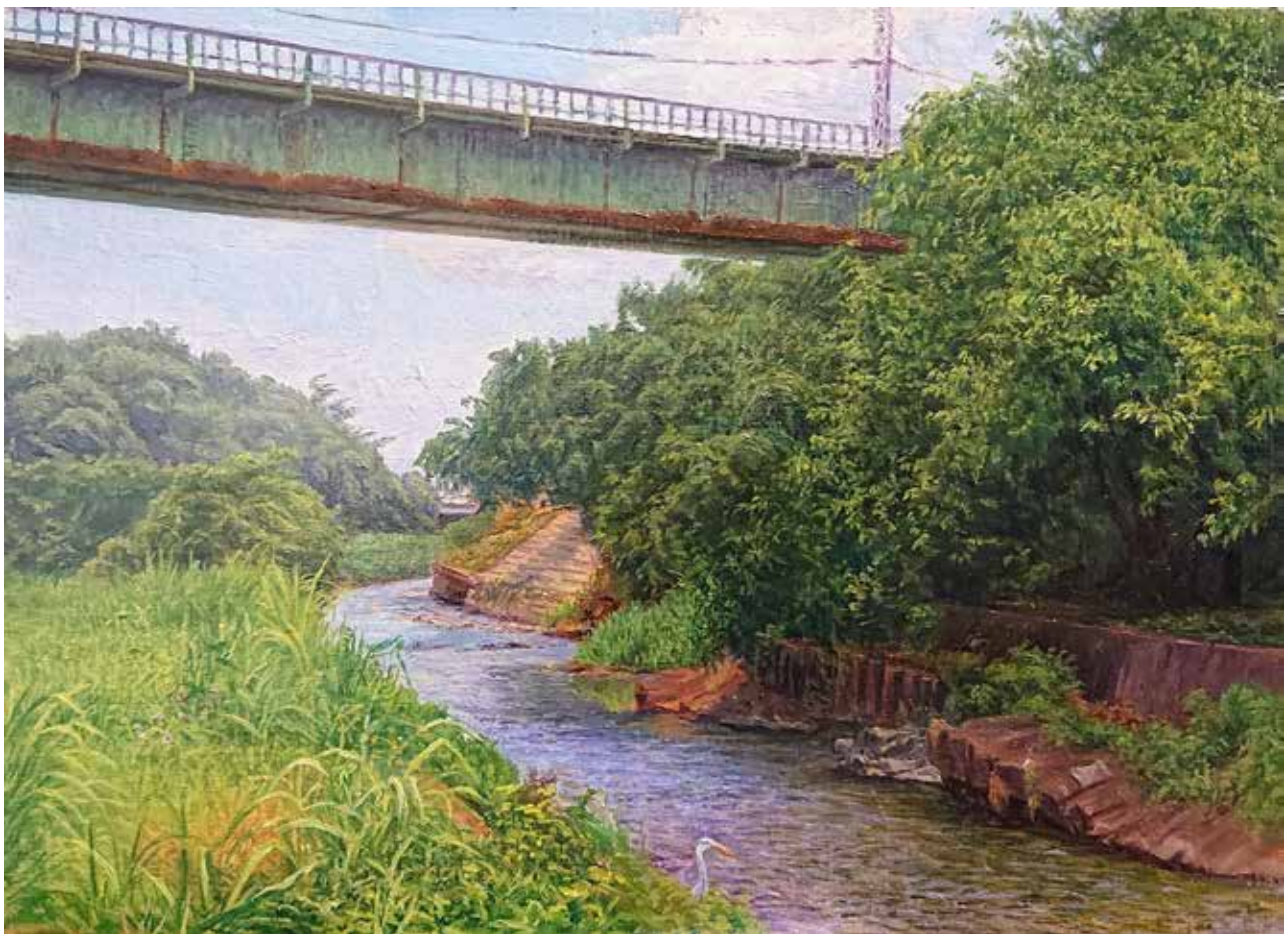
川づくり 清瀬の会

会 誌 第 34 号 2020 年 10 月 発行

発行者 荒 幡 経 夫

編集者 会誌編集委員会

連絡先 042-493-7864



柳瀬川・夏・城前橋付近

清瀬第四小学校

校長 岩 崎 治 彦 氏

目次

私たちの生活を脅かす川のゴミ問題・・・・・・・・・・	荒幡 経夫	1
私が清瀬に駆り立てられていた 「水辺環境の整備」と「結核医療の歴史を世界に広く 知らせるため立ち上がっていた先人たち」・・・・・・・・	小西 一午	5
コロナ渦の柳瀬川点描・・・・・・・・・・	柳瀬ゴロー	7
「川」雑感・・・・・・・・・・	鈴木 喜代子	8
清瀬の川と自然・・・・・・・・・・	渡辺 しのぶ	9
空堀川と共に・・・・・・・・・・	小川 慶子	11
植栽地だより 夏の植栽地（マント群落 つる植物）・・・・・・・・	宮澤とよみ	12
柳瀬川・空堀川に棲む魚の紹介・・・・・・・・	荒幡 経夫	14
夏の菜園（その2） 「自然を愛し土いじりの好きな男の戯言」・・・・・・・・	田島 通夫	15
河川と自然シリーズ②⑩ 夏の夜の花 ーカラスウリとキカラスウリー （ウリ科カラスウリ属）・・・・・・・・	宮澤とよ美	17
令和2年4月から令和2年9月までの活動報告・・・・・・・・	荒幡 経夫	19
今後の大きな行事予定・事務局だより・・・・・・・・	荒幡 経夫	23

私たちの生活を脅かす川のゴミ問題

荒幡経夫

ゴミ問題については、会誌 32 号で報告させて頂きましたが、ゴミの脅威がまだまだ浸透していない事と、若干知見が増えましたので再度掲載することにいたしました。

川づくり・清瀬の会では、柳瀬川・空堀川の河川清掃作業を毎年 6 回以上実施しています。会員中心に行っている作業ですが、作業予定の情報を見た一般の方たちにも参加して頂いています。

およそ、500m 前後の範囲を 2 時間ほどかけて、5～10 人で作業しています。

毎回、1～3 m³の量のゴミを回収しています。内容は、大きなものは自転車・布団・電子レンジなど、量の多い物はペットボトル・空き缶・レジ袋・プラスチックトレイ・ビニール製包装袋などです。他にも目に付くのは、河川工事に使われたシートなどの部材や靴などを含めた衣料類など、他に木や草などの自然由来の物などでした。

大きなものは数が減ってきていますが、毎回多く回収するものが、生活に身近なペットボトルやレジ袋・プラスチックトレイなどのビニール製品です。

過去、どんなものがどれくらい捨てられていたか、調べてみましたので考察してみたいと思います。

柳瀬川での回収例



衣類：10%



ビニール袋類：40%



ペットボトル類：10%



包装類：10%



トレイ類：20%



その他：10%

空堀川での回収例



今回収集したごみの総量 450×12 袋



河原に散在する工事用と思われるシート



カップ容器類：200 (約 4%)



ペットボトル類：500 (約 9%) 缶類：400 (約 7%)



トレイ類：300 (約 6%)



ビニール袋類：3100 (約 58%)

工事資材・他：900 (約 16%)

柳瀬川と空堀川では、ゴミの種類・量については大きな違いは出ていないようです。プラスチック製品がゴミ全体に占める割合は、80%前後を占めています。中でもレジ袋などの袋類は、40～58%と全体の半分を占めています。

ゴミには、意図的に捨てられたゴミと、人の不注意や風などによって川に入ってきたゴミがあります。

それらのゴミは、水の流れに乗って海に下っていきます。海に出たごみは、海底に沈むか、漂流し世界中に散らばっていきます。

集まったゴミは、美しい川や海の景観を壊し、川や海に棲む生物の生活を脅かし、最終的には死に至らしめます。

5mm以下の小さな物をマイクロプラスチックと呼び、化粧品の洗顔材や工業用洗浄剤に含まれる元々小さいものと、紫外線や風や波などの影響を受けて細かく破碎されてきたものがあります。

マイクロプラスチックは、有害物質を吸着する性質があり、それを食べた生物が体に障害を起し病気になり、体内に蓄積していきます。次に、その生物を食べた他の生物が同じように、体に障害を起し病気になり、体内に蓄積していきます。どんどん同じことが繰り返され、その被害は最終的に人間にまで及びます。

海や川に棲む生物たちにとってそこは、家であり庭であり日常を平穩に過ごしている生活の場所なのです。好きな時に食べ・眠り・生活していた場所に、周囲にたくさんのゴミが漂い集まり、いつの間にか囲まれてしまいました。

でも、生物たちにとってゴミが危険なものとは解りません。

私たち自身の健康を守るため、自然界に棲むたくさんの生物たちを守るために、プラスチック製品の仕様について考えなければならない時期に来ています。

環境汚染の低減・資源の有効利用として、3R (Reduce・Reuse・Recycle) が提唱されてきました。

リデュース：プラスチック製の袋や包装などを使わずに、エコバックなどを使ってプラスチックごみを減らすことです。

リユース：ガラス瓶など洗って再利用することで、プラスチック容器などのゴミを減らすことにつながります。

リサイクル：ガラス瓶・プラスチック製容器や包装、などを形の変えた別のものとして作り変え、再利用することです。

国や大きな企業が動かなければ、大きな変革はできないかもしれませんが、私たち個人個人の努力は、大きな積み重ねとなり、自然を回復させ、安全に生活できる地球を造る事ができるはずです。

地球上の限りある資源を大切に、そして有効的に利用するために、私たち個人個人がもっと具体的に実行できることがあります。

「川づくり・清瀬の会」からの提案です。

- ・プラスチック袋を使わず、エコバッグ（トートバッグなど）を使おう
- ・川でゴミを見つけたら、拾って片付けよう、捨てる人がいたら、注意しよう
- ・ゴミはしっかり分別し、捨てる日、捨てる場所を守ろう

世界中でこんな生物が被害にあっています。

写真の一部は、容器包装の 3R を進める全国ネットワークの冊子から抜粋させて頂きました。



ウミガメの鼻に刺さったストロー

ビニール袋をのどに詰まらせ死亡したウミガメ

写真提供：一般社団法人 JEAN。 <http://www.jean.jp>



荒川河口に溜まったペットボトルなどのビニール製品

写真提供：NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム



死亡した海鳥のお腹から出てきたライターなどのビニール製品

私が清瀬に駆り立てられていた

「水辺環境の整備」と「結核医療の歴史を世界に広く知らしめるため立ち上がっていた先人たち」

会員 小西 一午
(世界遺産アカデミー正会員)

1 はじめに

市はまちづくり基本理念として、「手をつなぎ、心をつなぐ・みどりの清瀬」を定め、その二大個性として「水と緑の豊かな自然環境」と「医療（結核）と福祉施設群」の備わった魅力ある街づくりを推進してきた。

2 水辺環境の整備

まず、恵まれた水と緑の環境整備である。市の代表河川の空堀川と柳瀬川の大改修により、中里二丁目第四小学校北側地先の約 510 メートル余りが廃河川敷となった。この旧河川敷に清流を復活させ、遊歩道形式に「自然学習園構想」（川づくり会初代会長神沢志郎さん提案）の「せせらぎ公園」を作り、清らかな水辺を渴望していた市民とりわけ子供達に利用させて、武蔵野の自然と親しめるようにした。それ以来、川づくりの会は、市の川づくり事業等のサポート役として重要な役割を果たしてきている。

次に柳瀬川の回廊事業である。民話にもある中里の梅坂橋から下宿のビオトープ公園までの約 4 km にわたって「水と回廊空間」が創出され、その回廊の更なる完璧化をねらいとして回廊事業推進検討委員会を市が組織した。その際、宮澤さん、現会長荒幡さんらに交じって、私も検討会メンバーになり、成案を市長に答申した。それを反映し市の水環境の施策は益々増進している。

3. 医療（結核）と福祉

もうひとつ、医療と福祉の問題だが、清瀬は医療施設の必須要件である良質な水もたやすく入手でき、1,200 年前の武蔵悲田処設置の昔から評価が高く、それは清瀬の特性として生き続けてきた。それを受け継いだ人々が都の結核施設を受け入れ、結核撲滅にたちむかってきた尊い歴史を全世界の人たちにも気づいてほしいものだと思えた市長が、世界遺産登録を目指す道にあゆみだして早や 10 年目になる。

4・世界遺産登録を目指す市長の信念

昭和初頭から結核撲滅に立ち向かっていた先人たちの偉業を顕彰するべく、世界医療文化遺産をめざす道を歩み出した渋谷市長の信念は、たいへんなものだった。この市長の動きに共鳴した私は、当初からその考え方や行動を共にしてきたが、その原点になったのは、96 歳の現在も「ミスター清瀬の結核マン」である第 6 代結核研究所長島尾忠男氏だ。同氏の「結核と清瀬」の講演会をともに拝聴する機会を得た私たち二人は、「これは世界遺産ものだ」という想いを共有し、以後行を共にしてきたものである。

一方、専門家の立場で、前結核研究所長で現結核予防会代表理事石川信克氏や現複十字病院院長（前国立東京病院院長）の大田健氏も、それぞれに市長をバックアップしている。

更に市長は、ぎょうせい社の「次代を創るリーダーの戦略」のインタビューで「清瀬が長年結核と闘ってきた歴史を背景に世界の「KIYOSE」として多くの国から関係者の訪れる結核の聖地でもあった。地域資源を生かし、世界医療文化遺産を目指している市民のまちづくりについて」の質問があり、大要次のように答えていた。

『清瀬が昔から結核と向き合ってきた歴史があり、昭和6年の府立病院を皮切りに官民あわせて10カ所ほどの病院に5,500床ほどのベッドが用意されていたという。その足跡として、市内には「ベトレヘムの園病院」や「ここに清瀬病院ありき」と記された石碑、「さくらの園」という歩行体力回復路などという記念物レベルの施設や遺構などが数多く残されている。そして、患者、医療従事者、宗教家、作家など数多くの人々によって紡がれてきた結核との闘いの歴史があり、これは、他にみられないものである。これを発信し、市民に親しまれる新しい清瀬ブランドを創出していきたい』と述べている。

私も、これに呼応するべく、所属しているNPO法人世界遺産アカデミーの会報誌「WHAMR」に次のような寄稿をしている。



世界遺産アカデミー WHAMR 8P

WHA member Report

結核の街の尊い歴史を背景に、 世界の結核医療を牽引していた清瀬の先人たちを世界遺産に

WHA正会員 小西 一午

東洋一と云われたサナトリウム街に加え、多くの福祉、医療施設に囲まれた清瀬は、国内有数のメディカルタウンでした。また、「世界のKIYOSE」として世界各地から医学生や専門家が訪れ、「結核の聖地・心の故郷」と慕われる街でした。この清瀬のオンリーワンの宝「結核の街の尊い歴史」を背景に、世界の結核医療のリードオフマンだった先人たちを顕彰するため、世界遺産を志したことは、本誌第41号で一報しましたが、その後の取り組みとして、日本の結核医療の先駆者・北里 柴三郎(きたざと・しばさぶろう)氏創設の「北里研究所」と総本山的存在の「結核予防会」との連携協定を締結し、世界遺産登録に尽力している。結核研究所では、清瀬市長・渋谷 金太郎(しばや・きんたろう)氏が世界遺産登録に向けて動き出したことについて、前所長・石川 伸克(いしかわ・のぶかつ)氏が研修同窓生たちに「私たちのパートナーシップを皆で謳歌しよう」と檄文を送り、大きな賛同を呼んだ。と同時に、元所長で予防会長、WHO執行理事と歴任し、95歳の現在も現役医師として結核患者に向き合っている島尾 忠男(しまお・ただお)氏、両先達の「愛と勇気と使命感」に溢れる活躍があった。



清瀬病院の病室(跡地は現・国立看護大学校)
『東京府立清瀬病院年報 第五』(昭和11年)

今、清瀬は、健康と平和に貢献するグローバル都市に向かって邁進している。「KIYOSE国際会議」も、国際研修生と市民が交流することを主題として、毎年開催されている。これらは、WHAの北村理事長と吉村理事の、「私たちの祖先・先輩の偉業は、世界人類皆で守るべきもので、それは行政主導ではなく、住民の“精神・誇り”を出発点とするべきである」とした、世界遺産の理念に合うものである。そして、清瀬では、市民の叡智も行政に取り込むべく、行政との協働が実行され続けている。

コロナ禍の柳瀬川点描

柳瀬 ゴロー

やわらぎの 心が通う 柳瀬川 桜並木よ
しあわせを分け合いながら 水鳥も翼を洗う

私が担当している FM ひがしくるめ『ゆったりくるめラ』金曜日 11 時台のオープニングで清瀬市からの情報、清瀬社会福祉協議会、そして川づくり・清瀬の会からのお知らせなどをお伝えしていますが、BGM は「清瀬賛歌」を使っております。柳瀬川の流れのような優しい旋律に乗せて、ふるさと清瀬の情報をお伝えすることを誇りに思い、これからも清瀬市民のお役に立てるように頑張っております。

この 2020 年は、東京オリンピック・パラリンピック開催も予定され、夢と希望に溢れる年になるはずでしたが、新型コロナウイルスによって、オリンピック・パラリンピックも延期となり、我々の生活も一変してしまいました。感染防止という観点から、ソーシャルディスタンスを取り、真夏の汗ばむ中でもマスク着用は当たり前で、人々の行動が制約されるようになり、かなり窮屈な日常と言わざるを得ません。夏の風物詩「きよせの環境・川まつり」も中止になり、例年にない寂しい夏が過ぎ去ってしまいましたが、日々柳瀬川を見ていても、散歩する方々は当然マスク着用で、人と人との間隔も自然と開いていて、毎日広場に集まっていた方々の姿も見えず、という変化を感じるようになりました。落ちていたゴミの中にもマスクが現れるようになり、先日行った空堀川の清掃活動でもマスクがたくさん落ちていて、その取り扱いに苦慮しましたが、これもコロナの影響と言えるでしょう。

一番の変化と言えるのが、金山橋周辺の様子です。近年のブームもあり、バーベキューを楽しむ方は増える一方ですが、コロナ禍の自粛生活を楽しく過ごすためにバーベキューを始めた方も多いため、そういう初心者でも手軽に楽しめる場所として金山橋付近が SNS などで紹介されているようで、毎週末かなり賑わっているのです。その変化をどう捉えるか、だと思いますが、バーベキュー客の皆さんには、「ソーシャルディスタンスをしっかりと取り、ゴミは必ず持ち帰ってください」と、お願いすることしか今はできません。



コロナによって、世の中が何となくギスギスしている中、自然の中で束の間楽しみたいという気持ちも分りますので、どうか常識的な行動を取ってもらえたらと、願っております。

「川」 雑感

鈴木 紀代子

TV を点けると豪雨による川の氾濫で、凄まじい被害があちらこちらで起きている映像が映し出されている。ふと「ゆく河の流れは絶えずして～」、方丈記の一文が頭をよぎった。作者の鴨長明は鎌倉時代の人である。その時代にも自然災害はあって、方丈記にはそのことの文章もあったと記憶していて、もう一度読んでみようと思い立ち、図書館で借りてきた。中学生の頃、古文の時間に少し習っただけなので、人生論であることが改めて知ることができた。鎌倉時代にも、大火・辻風・飢餓・地震・洪水などの災害があり、又、遷都もあって人々の生活が大変だったことがうかがえる。疫病もあったことだろう。

最近の豪雨と川の氾濫による惨状は、言葉では言い表せない程だ。亡くなられた人も多く、家・田・畑を失って困惑されている方々も沢山おられると思う。文明が発達し、数々の土木重機が開発され、道路工事や河川工事が日々行われているが、ひと度、大雨や川の氾濫があると、無残に破壊される映像は、如何に自然の力が強大なものかと思ひ知らされる。今は防災情報も徹底され、災害避難所も設けられているが、河川敷や、川岸で暮らしている川魚や水鳥たちはどうしているだろうと思ってしまう。水没した田畑で暮らしていた虫たちはどうしたか。

河・川・大河・大川・小川・谷川・生活水路 etc、私達の命の水はおだやかであって欲しい。しかし、人間がもっと便利にと豊かさを求め、自然を痛めつけると、もっと大きなしっぺ返しがあるかも知れない。シベリアの永久凍土が、ヒマラヤ山脈の氷河、南極の氷が溶けていると言われて久しい。又、温暖化による大気の異常も....。

私の川の思い出は、木曽川や長瀬などの舟下り、尾瀬ヶ原の春の水芭蕉や、りゅうきん花の咲いている流れ、山の谷川や里山の小川など、おだやかな川である。清瀬に住んで30年、柳瀬川や空堀川も散策する大切な川である。

～こぶなつりしかの川～は、いつまでも多くの人々の心の歌ですよね。私たちは、川を今まで以上に大切に行きたいと思うこの頃である。



空堀川のリュウキンカ

清瀬の川と自然

渡辺 しのぶ

昨年からお仲間に入れて頂きました渡辺と申します。活動になかなか参加できないので皆様とお会いする機会がないままですが、文面で失礼します。

私は数年前、所沢周辺で引っ越し先を探していたのですが、いくつかの物件を見て



ヤマユリ

いる合間に、不動産屋さんが柳瀬川や空堀川を見せてくれました。季節は夏で、澄んだ水の中に銀色のうろこを光らせながら泳ぐ魚や、まぶしいほどの青空と白い雲を背景に川の中で遊んでいる子どもたちを見て、今時東京でこれだけ豊かな自然があり、その中で人が遊べるように意識して管理されている川があるなんて、この辺りに住みたいなあ、と思いました。その願いがかなって清瀬に住むことになりました。

引っ越してから秋になり、川の傍の林の木々がそれは見事に色づいて、やがて落ち葉になり、遊歩道に積まりました。そこで撮った犬の写真を見た友達は、「これは、どこ」「東京とは思えない」「いい所ねえ」と言ってくれました。

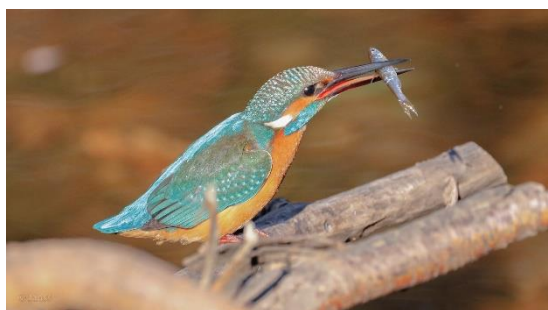
その年は冬に大雪が降りました。雪がやんだ翌日、木々の枝に積もった雪と鮮やかな青空のコントラストが見事でした。山奥でしか見られないような景色を自分の住んでいる場所でみられる贅沢を満喫しました。林の中に残った白い雪の上に、影を落とす黒い木々のシルエットも森の中でしか見られないような風景でした。そして春、林の中にカタクリが咲いているのを見つけ、ビックリしました。自生しているカタクリの群落は、条件がそろっている限られた場所でしか見られないはずなのに、犬の散歩コースで毎日見られるなんて、感激でした。以前住んでいた千葉では、北向きの斜面にわずかに残っていたカタクリに気づいた人たちが、それを守るために、下草を刈ったり、柵を作ったりして





何年もかけてカタクリを増やしていました。それほど貴重な植物が、人家のこんな近くで咲いている姿に驚きました。そして、その次はヤマユリ、キツネノカミソリなど、次から次に自然の花が咲くように、さりげなく管理されていることに気が付きました。人の手が入っていなければ見られない自然の様子ですが、それを感じさせない場所でした。犬の散歩をしながら、川をみていると、水辺まで降りていける場所がありました。「危険、近づくな」と人と川を隔てるような河川管理ではなく、人と川が共存していけるような距離の近さを感じました。ただ、

河川敷を歩いているとごみが気になります。それは流れてきたごみだけでなく、橋の上から捨てられたようなものもありました。これだけ豊かな自然が残っているということは、守る努力をしている人達がいることがわかります。が、一方でごみを捨てる人もいるというところが、都市部に残った川であるがゆえなのかなあ、と感じていました。そんな中で、ある日、川のごみを拾っている人達を見つけて、思い切って声をかけたのが、川づくり・清瀬の会の宮澤さんとの出会いでした。その時、この辺りの川や雑木林や植物、動物等のお話を伺い、川とその周辺の自然が、かつては人が入って荒れ果てていたものを、人手と時間をかけて守る努力をして今日の様相になっていることを知りました。このような豊かな自然と生態系が保たれているのは、守っている人達の努力のたまものだと思います。毎日の散歩の傍らで、カワセミが魚を捕



カワセミ

り、カワウが水の中に潜って魚を追っています。こんな様子を見られるところは、なかなかありません。夏の早朝、たくさんのサギが柳瀬川に群れている様子を見たこともあります。季節によって、発見があります。これからも自然がどんな姿をみせてくれるのか楽しみです。そしてそれを守る方たちからいろいろ学ばせて頂けたらと期待しています。よろしくお願い致します。

空堀川と共に

小川 慶子（梅園 3 丁目在住）

昭和 42 年、秋津駅まで徒歩 10 分、開校 2 年目の第六小学校も近く、雑木林も川も在り、子育てには良い環境に住居が持てたと、この梅園に転居出来たことを喜んでおりました。（当時町会は 15 世帯）間もなく当時の会長さんが、この空堀川は川幅がなく、「台風など大雨になると下流地域で水害が有るので、都に拡張の要請書を出したいので署名をお願いしたい」との話しで、安心して喜んでいたのも束の間、考えてもいなかった事を聞かされて、この川の問題はそれ以来頭を離れませんでした。

その後、野塩橋も架け替えられ、川幅を広げ、遊歩道も両側に出来て、今では市民の散歩やら、若者のマラソンの姿が見られます。ここ何年か異常気象で道路スレスレの流れの時もありましたが、大きな被害もなく本日に至っています。と言っても、自然相手の事なので、全国で起きる集中豪雨被害で、「今までに無い程の雨量です」「味わった事のない状況です」とのアナウンスを聞くと人は右往左往するばかりです。自然は侮れません、川のゴミ拾いも歩きやすい時に、身体に合わせて協力させていただきます。

会員の皆様方が、川を愛し、そこに住みつく生物を愛おしく思われて、活動を長くされている事を知りまして、感動致しております。遅ればせながらの参加ですが、微力ながら、よろしくお願い致します。



梅園 3 丁目にある親水階段と遊歩道

植栽地だより

夏の植栽地（マント群落 つる植物）

宮澤 とよ美

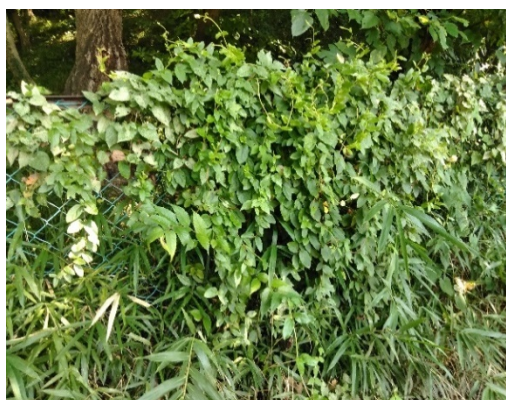
今年程非日常の生活が続いたことはなく、例年行われる環境整備作業も手がつかない所が多い。河川に沿うフェンスや樹木に様々なつる草が取り付き競争で高く高くツルを伸ばし覆いかぶさっている。

本来は雑木林の縁につる草が密生、人がマントを着て寒さから身を守るように、これらつる草が林内への風の吹き込みや直射日光を遮断して、乾燥を防ぎ林内の環境を守る大切な役割を担っている。それ故つる草群落は**マント群落**と呼ばれています。

植栽地は、元畑地に植栽して雑木林となり約九年、まだ清



林の樹木に上るつる草



植栽地のフェンスに絡み合うつる草

瀬に見られるつる草のすべての種が生えてはいません。特に自動車道に接する歩道は子供たちの通学路、柵に生えるつる草は他の雑草と共に引き抜いて歩きやすくしています。ですが植栽地林床全体と川に沿うフェンスにはつる草が重なり合って伸びています。そのいくつかを紹介いたします。



ヘクソカズラの花



強靱な蔓で林床を這うヘクソカズラ

●ヘクソカズラ（屁糞

葛）アカネ科ヘクソカズラ属。日本の山野に自生するつる性多年草。この可哀想な名前の由来は、文字通り、花や葉茎を切断すると屁糞のような悪臭がする為ですが、名前に反して上の写真のようにとても可愛らしい花を咲かせ、名前程酷い匂いでもない。

●ヤブガラシ（ブドウ科ヤブガラシ属）つる植物で、日本ではよく見かける雑草です。植栽地のいたるところから芽を出しいくら引き抜いても退治しきれません。和名は藪を覆って枯らしてしまうほどの生育の旺盛さを示している。別名**ビンボウカズラ**（貧乏葛）とも呼ばれ、その意味は、

この植物に絡まれた家屋が貧相に見えるということからか。この辺りのヘクソカズラは果実をつける事が出来ない、その代わり長く伸ばす地下茎で繁殖する。方々に根を伸ばし、退治がむずかしい。



ヤブガラシの花



フェンスにからまるガガイモ

●ガガイモ(キョウチクトウ科ガガイモ属)

植栽地の河川に沿う斜面やバス停のフェンスに最初から大きな対生する厚い葉でからみ、茎は切ると乳液が出る。夏に反り返る白い花をつけ、花径は約 1 cm で 5 裂し、内面に毛が密生する。花は咲くがここでは果実はなかなかつかない。河川内にも多くみられます。□

●クズ (マメ科クズ属) 少し油断をすると林一面を占拠されてしまいます。これだけは見つけると根から刈り取ります。

年数を経たくずの根からは良質のでんぷんが採れます。これが本物のクズ粉です。このクズは世界の緑化のため持ち出され、今は広がりすぎて、国際自然保護連合 (IUCN) によって 「世界の侵略的外来生物ワースト 100」 に選定されているほどです。このクズは夏に花穂を出し、下から咲く甘い香りの花は多くの虫を呼びます。本来は、このマント群落到包まれた樹林内には多種夏の虫や生き物の棲家となります。

●他に：マルバアサガオ・マルバルコウソウ・ヒルガオ・コヒルガオ・クサフジの仲間が這いまわっています。下は、今植栽地に咲く多くのつる草のうち 3 種。



クズの花

ヒヨドリジョウゴ



マルバルコウソウ



アメリカホドイモ



柳瀬川・空堀川に棲む魚の紹介

荒幡 経夫

マルタ



マルタはコイ目コイ科に分類され、川の汽水域から沿岸部の浅い海水域に生息しています。関東以北に分布し、東京湾では浅い沿岸部で二枚貝を主食とし、エビ類やゴカイなども食べて生活しています。

マルタウグイとも呼ばれますが、正式名称はマルタで淡水に棲むウグイとは、大きさが倍以上違い、成魚は50 cm前後まで成長します。

産卵期は、4～6月頃で、川に遡上して砂礫底の石の上に群れになって産卵します。柳瀬川でも産卵が確認されています。その時期は、雌雄ともに背中と腹面に赤色の帯状の線が出て、各鰭も赤みを帯びた婚姻色が出ています。

写真はちょうど4月の産卵期に遡上してきた群れの写真で、腹側が赤くなっています。

卵の大きさは2.5 mmほどで、4～5日でふ化し、2か月くらいで2 cm程の稚魚に成長します。1年で10 cm程に成長すると内湾で生活するようになり、3～4年すると川を遡上し産卵するようになります。

小骨が多い魚で、あまり食用にはされていませんが、煮つけや甘露煮、塩焼きなどにして食べられています。

今年も、群れの中に釣り針を投げて遊んでいる人を見かけましたが、せっかく清瀬の川に産卵に来ている魚ですから、静かに見守ってあげたいと思います。

夏の菜園（その2）

「自然を愛し土いじりの好きな男の戯言」

田島 通夫

前回の夏の菜園の風景は、ナス科の作物に限定し、写生してお伝えしましたが、夏の菜園の風景には欠かせない定番の作物が他にも沢山ありますね。今回はきゅうり、枝豆、いんげんについてふれてみたい。

先ずはきゅうり（胡瓜）から。

夏の菜園の最もポピュラーな作物の一つでしょう。どこの菜園を見ても必ず棚を組み、蔓がからまり、真っ青な大きな実がぞろりとぶら下がり、自己主張しています。又、庭のある家ではどんな小さな庭でも土があればトマトと一緒に庭を飾っています。

果菜類の中でも最も身近で親しみのある作物でしょう。生のままガブッと噛めば、あの

清涼感を全身で感じられます。普段意識はしませんが、白いぼきゅうり、黒いぼきゅうり、いぼなしきゅうりがあり、それぞれ食感が違います。白いぼは、色鮮やかで、歯切れがいい。みずみずしく、水分が多い。そして、生食がうまいので市場流通の大半を占めます。黒いぼは皮が厚く味は濃いので人気がなく、いぼなしはサラダ向け。原産地はインド側ヒマラヤ山麓で、アジア地方で栽培されていたものはヨーロッパ方面と中国方面の2ルートで広がり、中国から日本に持ち込まれた。黒いぼは平安時代中ごろ、白いぼは江戸時代に日本に渡来した。成分はほとんどが水分で、あと微量のカリウム、ナトリウム、カルシウムが含まれており、天然スポーツドリンクとして、又、熱中症予防に効果があると言われています。まさに夏にうってつけの食材ですね。ツヤツヤでみずみずしい生のキュウリをガリッと齧った時の、あの音、あの感触、口の中に広がる爽快感。

たまりませんね。



次は枝豆です。



大豆の成熟していない豆を莢ごと茹で、中の実を食べるのが一般的ですが、成熟させると大豆になります。地方独自の品種として有名な山形の「だだちゃ豆」、福島、秋田の「五葉豆」、新潟の「茶豆」、丹波の「黒豆」等があります。大豆の原産地は中国北部と言われ、日本には縄文時代に伝来し、主要穀物として食されていたが、江戸時代頃から枝についたまま茹でて食べる日本独自の食習慣が始まった。近年日本食ブームで海外でも枝豆として食されるようになった。枝豆と聞くとついビールを連想してしまいます。枝豆をつまみに冷えたビールを飲む....夏の醍醐味ですネ。大豆は畑の肉と言われていることは御存知と思います。それ程栄養価が高く、他にもカルシウム、ビタミン類、食物繊維、鉄分、カリウム等を大量に含んでいます。

特筆すべきは葉酸が多く含まれている事です。体の成長や貧血の予防、生活習慣病等に効果があります。又、ビタミン類は夏バテ防止や疲労回復に効果的です。旨くて栄養タップリ、その上冷たいビールで....夏にはなくてはならない食物？つまみ？ですネ。

次にさやいんげんです。

いんげん豆として豆で販売されている物とは少々品種が違い、未成熟の莢ごと食べるいんげんです。丸さや、丸平さや、平さやに分別されます。又つるありと、つるなしがあります。丸さやいんげんの代表種はドジョウインゲン、形がドジョウに似ているから。平さやいんげんは、モロッコが有名です。さやの中が広く平らだから。

原産地はメキシコ付近で、コロンブスの新大陸発見でヨーロッパにもたらされた。日本へは江戸時代に隠元禅師によって中国から伝わった。当時は中の豆だけを食べていたが、若莢ごと食べるさやいんげんは幕末頃に分化したもの。名前の由来は隠元禅師にちなんだものだが、隠元禅師が伝えた物はいんげんではなかったとの説もあります。野菜と豆類との双方の栄養的特徴を兼ね備えており、ビタミン類、βカロチン、食物繊維を豊富に含み、又、アスパラギンも含み、疲労回復、体組織の修復、肌や皮フをきれいにする。又、肥満防止、コレステロール値低下の効果も期待出来ます。



夏の夜の花 カラスウリとキカラスウリ (ウリ科カラスウリ属)

宮澤 とよ美

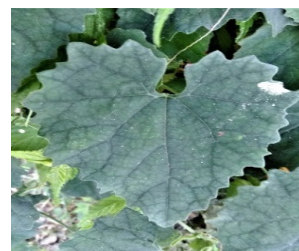
この夏、河川に沿うどこを見ても伸びに伸びたつる草が目につきます。その中には秋に赤い実をつけるカラスウリも絡まっています。

近年まで農地の境界に植えられた茶の木にも他のつる草と共にカラスウリは見られ、それ程珍しいものではありません。ところが畑地の宅地化が進み、つる草が絡まる低木が少なく、秋の環境学習時自転車でカラスウリの赤い実を捜して歩くほど少なくなりました。カラスウリ・キカラスウリともに、雄花だけをつける雄株と、果実をつける雌株の**雌雄異株**ですので、野塩近辺では、雄株の方が多いということでしょうか。

◆カラスウリ：(夜に咲く花 レース模様の魅力ある花です)

夏、フェンスや藪蔭に夕闇が迫るとカラスウリの白い花が咲き始めます。5 枚の花弁をそり返し、花冠の先がレース糸のように細く裂け、繊細なレース模様で装い、**カラスウリは虫媒花**なので、花粉を媒介する昆虫を呼ぶのでしょう。また花にはかすかな香りもあります。日の出には花はしぼみ雄花は一夜で散ります。雌花は長いがく筒の下に緑色楕円形の子房（下位子房）があるので見分けがつき、しぼんだ花は果実の先端にいつまでもついています。

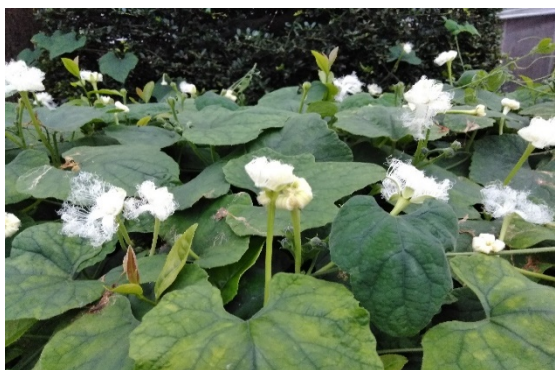
カラスウリ雄株：葉の表面はつやがなくざらつき、長いがく筒を持つ雄花は1箇所から多くのつぼみを出し、順々に花開きます。



1 箇所にいくつものつぼみをつけ次々に咲く雄花。夜明けにはほとんどガク片の中にレース模様の花を折りたたんで散ってゆきます。暗さをこらえて観察すると、次々にハムシの仲間、夜のスズメガの仲間などが静かに見られます。



カラスウリ雌株：カラスウリの雌株と雄株の花の違いは、雌株は細長い筒状の萼の下に楕円形の子房のふくらみがあります。受粉后果実（瓜）は花筒をつけたまま成長、葉が潤れるころに赤く熟し、しおれた花筒もなくなっています。種子は黒、形が独特。



野塩団地坂上のカラスウリが絡む農家の生垣。カラスウリの花は7月下旬から8月。昼間にカラスウリのつる株を見つけたら、夜7時頃出かけてみて下さい。

多くのつぼみが、受粉の助けをしてくれる虫を呼び込むために、暗い中で一夜限りの繊細で美しい花を次々と広げます。

◆**キカラスウリ雄株：**空堀川柳原橋の袂に生える雄株。花は朝遅くとも見られます。果実は楕円形でカラスウリより大きく黄色。近くに雌株が見られないのが残念です。



キカラスウリの葉は、黄色みの強い緑色ですべすべしています。つぼみはカラスウリとは写真のように違います。花冠は5分裂し、裂片の先は広がって、さらに先端は糸状に細裂します。この根のでんぷんは薬の天花粉として子供の頃よく風呂上りや、汗もの予防に使われます。

◆令和2年4月から令和2年9月までの活動記録◆

4月の活動

- 8日：総会資料印刷作業：荒幡
- 10日：総会中止準備作業と資料の配布：田島・船木・荒幡
会員菅原氏の事務所をお借りして作業を実施する。
- 13日：空堀川清掃作業：会員小川氏
- 14日：空堀川清掃作業：会員小川氏
- 23日：空堀川清掃作業：会員小川氏
- 24日：空堀川清掃作業：会員小川氏
- 26日：柳瀬川台田運動公園前でマルタの群れを確認する：船木

5月の活動

- 16日：全国一斉水質調査用の試薬引き取り：荒幡
コロナウイルスの影響により、新河岸川水系水環境連絡会の総会・水質調査の試薬配布ができなくなったため、事務局が秋津駅まで総会資料と試薬を持って来て頂いたの
で引き取りに行く。
- 31日：柳瀬川清掃作業を実施する：田島・宮澤・加瀬・柏崎・船木・荒幡
台田運動公園前の河川敷のゴミ拾いを実施する。
アユが遡上している情報を得る。



実施した河川清掃の時の
ゴミで、ビニール波板の
破片が多かった。

6月の活動

- 2日：新河岸川流域川づくり連絡会参加：宮澤・加瀬・戸塚・船木・荒幡
今年度の、勉強会テーマ・川でつながる発表会・里川新聞の記事内容・他流域との交流会などに付いて打ち合わせした。
- 5日：幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・船木・荒幡
会員の木村さんを含めて、6月の活動内容について審議した。
- 7日：全国一斉水質調査実施：田島・戸塚・宮澤・加瀬・斎藤・小西・柏崎・船木・荒幡
会員の木村さん・藤岡さん・菅原さん・原さん・目黒さん・丸松産業さんに手伝って頂く。昨夜大雨が降ったので心配されたが、調査時刻には若干の水量増加が認められたが、支障なく実施することができた。気温・水温・pH・COD・NO²・NH₄・EC・水量・流速・川の様子などに付いて計測調査した。
- 10日：清瀬環境市民協議会に参加：宮澤・加瀬
CO²検査、緑の測定実施
- 11日：生物確認：荒幡
金山橋下でアユ（10～12 cm）の群れを、少し上流でニゴイを確認する。空堀川・梅坂橋下でオイカワ（5～7 cm）の群れを確認する。
- 18日：水質調査の結果をまとめ発送する：荒幡
調査結果をまとめたデータを新河岸川水系水環境連絡会へ送信し、サンプル水と測定値記入用紙を発送する。
- 20日：空堀川の植生調査実施：宮澤・荒幡
三郷橋から大沼田橋間の植生調査を実施し、保存植物・保存エリアの確認をする。
- 24日：空堀川植生調査の結果を北多摩北部建設事務所へメールする：荒幡
20日に調査した結果を、図面に落とし込んだファイルを作り、夏の草刈り時に希少植物を切らないように北多摩北部建設事務所をお願いする。
- 27日：植栽地の管理作業：宮澤・加瀬・柏崎・荒幡
他に会員木村氏が参加。クヌギの萌芽更新、下草刈り、道路側の落ち葉清掃、傾倒していたクルミの木の補正などを実施した。
- 下旬：情報入手：船木
柳瀬川で釣り人からモクズガニ・スジエビの確認情報を得る

7月の活動

- 3日：幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・船木・荒幡
- 16日：市報掲載依頼出す：荒幡
9月に実施予定の、空堀川での清掃と、生き物観察会の記事掲載依頼を市に提出する。
- 29日：緑の保全審議会に参加：宮澤
緑の基本計画策定

8月の活動

7日：幹事会開催：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・船木・荒幡

9日：川清掃・生き物観察会実施：田島・戸塚・宮澤・柏崎・船木・荒幡

柳瀬川・台田運動公園前の川で実施する。会員参加：小川氏、一般参加3家族13名、SNSでの呼びかけでは参加者はいなかった。

今回は、手網だけでなく、釣りの採集も実施する。

確認生物：オイカワ・タモロコ稚魚・ヌマチチブ・スミウキゴリ・ウキゴリ

アメンボ・ハグロトンボのヤゴ・スジエビ・カワリヌマエビの仲間

ヒゲナガクロカワムシ・カゲロウ・カワゲラ・ヒラタドロムシ



解説員の話に熱心に聞く子供たち



タモロコの稚魚



回収したごみ：工事関係 45L+コンクリ鉄屑 100 m³

ビニール袋類 45L・紙類 10L・塩ビ類 10L

ペットボトル 5本・缶 8個・サンダル 3個

24日：金山緑地公園池の外来種駆除作業申請を市へ提出：荒幡

25日：夏の業者による河床除草計画のため対応する：宮澤

6月22日梅坂橋下流希少種のマーキング。実際には天候不順等のため、除草作業は8月下旬に変更。再度マーキング。

26日：北多摩北部建設事務所からゴミ袋と軍手の資材提供を受ける：荒幡

28日：金山緑地公園池での外来種駆除の市報掲載を市へ依頼する：荒幡

31日：清瀬第四中学校生徒会

空堀川の清掃。今関校長先生始め諸先生方のご協力もいただき今月も実行されました。

9月の活動

5日：空堀川清掃作業：宮澤・船木・荒幡

会員：木村氏・大谷氏・小川氏・吉田氏、一般大人6名子供2名に参加して頂き、上流は前原橋から下流は新合流地点までの間を清掃することができた。

集めたごみの量は、総量 680 m³でした。



ビニール袋類 270L (40%)



ペットボトル類 180L (26%)



瓶缶類 45L (7%)・トレイ類 45L (7%)・紙類 45L (7%)・マット、傘、靴など 45L (7%)



11日：幹事会実施：田島・戸塚・宮澤・柏崎・船木・荒幡

13日：生き物観察会実施：田島・戸塚・宮澤・柏崎・船木・荒幡

空堀川で、会員木村さん、一般増岡さんに手伝って頂き、川の清掃・生物採集・解説を実施した。参加者は、14家族38名で、けがもなく無事に終了することができた。

確認生物：オイカワ (1cmの稚魚多数)・ヨシノボリ・ギバチ・ドジョウ・ギンヤンマ・シオカラトンボ・コヤマトンボ・カワリヌマエビ (大量)・カゲロウの仲間



採った生物の説明



川のゴミ拾い



拾い集めたごみ約 200L

◆今後の大きな行事予定◆

- ・10月4日（日）：植栽地整備作業（三郷橋横雑木林） 9:30 集合
- ・10月20日（火）：金山緑地公園池の外来種駆除（金山緑地公園） 9:00 開催
- ・11月8日（日）：市内一斉清掃・柳瀬川河川清掃（台田運動公園） 9:00 集合
- ・11月28日（土）：空堀川河川清掃（梅坂橋横広場） 9:30 集合
- ・12月19日（土）：植栽地整備作業（三郷橋横雑木林） 9:30 集合
- ・令和3年3月20日（土）：空堀川河川清掃（梅坂橋横広場に集合） 9:30 集合

※皆様のご参加ご協力を、心よりお願いいたします。

◆事務局だより◆

今年の上半期は、コロナ感染というだれもが予想もしない事態に直面し、自由の利かないさんざんな目にあいました。

すべての人が、初めての体験で試行錯誤しながら、行動していたと思います。

当会でも多くの作業を中止しましたが、総会の中止にともなう資料の配布・全国水質調査への参加・柳瀬川と空堀川での清掃と生き物観察会を一部縮小し、簡素化して実行することができました。

厳しい環境の中、少しでも活動できたことは、会員の皆様や関係者の皆様のご協力とご支援があつての事と感謝申し上げます。

下半期の活動ですが、市ではいろいろのイベントを中止しています。なかなか事態の収束は見られませんが、3密や消毒などの感染予防に注意しながら実施していく考えです。

少しでも川の環境が良くなり、成長していけるように、頑張っていきたいと思います。

今後も、会員の皆様の増々のご支援と、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

川づくり・清瀬の会

〒204-0021 清瀬市元町 2-19-28

TEL：042-493-7864

事務局：荒幡経夫